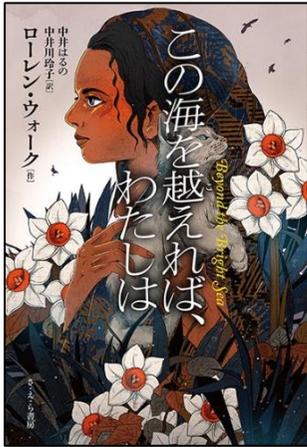


外国文学



この海を越えれば、わたしは

ローレン・ウォーク／作
中井はるの・中井川玲子／訳
さ・え・ら書房（2019年）

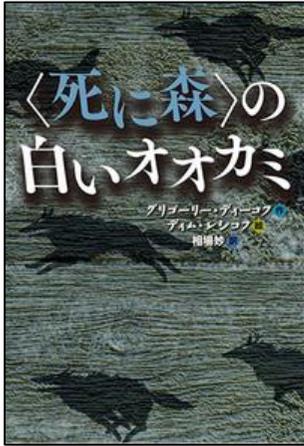
クロウは海に流され、拾われた少女。育ての親オッシュと孤島で野性のままに生きていたが、出生の謎を探るうちに隠されたお宝の秘密に触れてしまい、思いもよらぬ冒険活劇に巻き込まれて行く。

ハロー、ここにいるよ

エリン・エントラーダ・ケリー／著
武富博子／訳
評論社（2020年）

内気な少年ヴァージルは、夏のある日、友達の家カオリの所へ行く途中でいじめっ子に見つかりとんでもないことになってしまう。悪夢に悩むヴァレンシアは相談のためカオりに会うが、カオリはヴァージルが来ないことを心配して…。





《死に森》の白いオオカミ

グリゴリー・ディーコフ／作
ディム・レシコフ／絵 相場妙／訳
徳間書店（2019年）

ロシアの田舎の村に伝わる古い話。
長老の忠告も聞かず、村の男たちが
土地を広げるため白い魔物が住む
という森を焼き払ってしまった。以来、
村人がオオカミに襲われるように…。
人の忠告や約束は、決して^{ないがし}蔑ろにして
はいけない。

兄の名は、ジェシカ

ジョン・ボイン／著
原田勝／訳
あすなろ書房（2020年）

もし大切な家族から秘密を打ち明け
られたら。それを認めることで、これ
からの関係が変化するかもしれなかつ
たら。家族の絆が強くて少し保守的な、
ごく普通のイギリス家庭を舞台に
LGBT をめぐる騒動をユーモラスに
描いた作品。

